

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念が作成されており、毎年更新している。今年は職員会議や推進会議を活用し、ワークショップ方式で理念を作成している。	○	今後も利用者や家族のニーズにより忠実な現実可能な理念を作り実現に向けて取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の見やすい場所に掲示し、スタッフ間で理念共有出来るようにしている。職員会議の場でも情報を共有し、実践に向け取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族と共に夏祭りに参加したり、スタッフと一緒に市内の祭りに出かけたりと地域の人々との交流を多く持てるように支援している。	○	今後もより多く地域の方々とふれあえるよう継続して生活の中に取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の学校の学生達と合えばいつでも挨拶している。学生達も利用者積極的に挨拶を返してくれる。近所で行われるお祭りなどに参加し、地域との交流を図っている。	○	近隣の方々と交流は大切に、今後も活動的に取り入れていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や評価後の指摘点などはスタッフ全員で共有し改善に取り組んでいる。又、職員会議で検討し実践している。	○	今後も評価を活かし、よりよいケアサービスが出来るよう取り組んでいきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では自己評価、外部評価の結果を報告し意見交換を行いサービスの質の向上・確保に繋げている。	○	メンバーに積極的に参加してもらい意見交換や情報交換を行い今後の取り組みに活かしていきたい。
7	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内等の実態を理解してもらうために自己評価や外部評価の結果を報告し利用者の生活の質を高める課題解決協力の働きかけを行っている。	○	今後も行政の協力が得られるよう働きかけを継続していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修等により理解を深め、実際に入居者でも権利擁護事業を利用されている方もいるため、スタッフ全員で概要について理解している。	○	今後も研修や実践を通じて理解を深めていく事が必要と思う。
9	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などを通し内部研修を実施している。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待に関する内部研修実施</li> <li>・職員同士、虐待の範囲を把握する</li> <li>・職員の日々のケアをお互い観察し、話し合いの場を設定する</li> <li>・職員の精神的ケアや何でも言い合える良好な関係を築いていく必要がある。</li> </ul>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明や入居している利用者には介護保険制度改正時等は家族に説明し了承を得ている。	○	今後も利用者又は家族に不安を生じさせないようにその都度情報を提供し継続して支援していく。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	オンブズマン等への要望・苦情などの意見を参考に現場に反映させている。	○	出された意見や苦情を検討し、今後も現場に活かしていきたい。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりは定期的に手紙やなかよし便りで報告している。 ・利用者の健康面については、受診時特変が見られる時は電話連絡している。 ・利用者の金銭管理は、出納帳へ記入し毎月領収書を添付し報告している。	○	・利用者の暮らしぶりは担当スタッフが、なかよし便りへコメントを書き、定期的に家族へ報告している。 ・職員の移動で担当が変わった時は、その都度家族へ挨拶し報告している。又、新しい職員はなかよし便りで紹介している。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来荘時や推進会議等で出た家族からの意見はスタッフの会議の場で公開し現場に活かしている。	○	今後もケアサービスに反映させて行きたい。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方針や利用者の受入については職員会議や回覧などで広くスタッフの意見を取り入れている。	○	職員会議等での意見など、出来るだけ取り入れていきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・行事などある時は人員を厚く配置している ・急な病院受診にも対応できるように勤務調整している。 ・スタッフの急な休みにも、代替りのスタッフで対応出来るように調整している。	○	職員の休み希望など事前に取り入れ、利用者の毎日の暮らしに支障が出ないよう人員配置している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動時は利用者の混乱がなく生活の維持や支援が継続していけるように利用者家族に説明や詳細な引き継ぎを行っている。	○	・職員の移動の際は利用者の精神的ケアや家族へのケア、説明など継続していく必要がある。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月に一度の内部研修実施、外部研修も定期的に参加している。 ・研修後も職員会議等を利用し報告会を行い職員にフィードバックしている。	○	・月一度の内部研修は今後も継続していきたい。 ・外部研修も職員の現状にあった物があれば機会を確保していく。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部、外部研修を通じ同業者や異職種との交流を持てるようにしている。	○	今後も交流や連携の必要性を認識し継続して取り組んでいきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務の中で、スタッフの悩みやストレスの背景などを理解することが出来ない事が多い。今後取り組んで行きたい課題である。	○	・職員同士又は上司と職員との意見交換の場や相談しあえる様な関係を作り上げていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業時間を遵守して、職員が働きやすい環境を整備することにより、よりよいサービスが出来るように働きかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネからの紹介時、情報をきちんともらうと共に、本人家族とのインテーク時も困っている事や不安など出来るだけ聞き出し、対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・対応できる事は柔軟に取り入れ、必要に応じて出来ない事は検討し他のサービスを含めた対応をしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者と話し合いを行い、安心してサービスを受けて、早く馴染みの関係を築けるよう対応している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の喜怒哀楽を共感し、昔の歌を歌ったり踊ったりして理解を深めるように努めている。 ・利用者と共に食事の準備や片付け、掃除など日常生活を一緒に行い共同生活をしている。	○  共に利用者と行動し、食事の準備や片付けを手伝っていただく事により、お互いに支え合う関係を築いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	担当者からの報告などを通し、利用者の生活状況や体調変化を新聞で伝えたり、来荘時や電話にて情報交換するなどして、共に支え合えるような関係を作れるように努めている。	○	利用者の情報を密に報告して共に支え合えるような関係作りを継続して構築していきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人にこれまでの生活歴などを聞き、家族関係などの理解に努めている。又、ホーム内の情報をまめに伝える等、絆を大切するよう支援している。	○	家族との関係が途切れないように、なかよし便りで近況報告を継続していく。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅など馴染みの場所に出かけられるように支援している。又、知人などからの電話手紙などを取り持つように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は利用者同士、助け合い支え合って暮らしていく事の大切さを理解している。</li> <li>利用者の仲の善し悪し等、人間関係を把握している。</li> <li>利用者が孤立しないよう配慮している。</li> <li>利用者同士の個性を大切にしている。</li> </ul>	○	利用者それぞれの長所、短所を把握しその場に応じ席を変えたり移動時声がけを工夫しながら利用者同士の関わり合いを支え合えるように努める。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>退居された利用者には、地域の居宅支援事業所と連携を取り関わりを保っている。</li> <li>サービスが終了した家族の相談も、必要に応じて相談支援に応じている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望、意向の把握するように努めている。又、利用者との意思疎通が困難な場合は、気づきを職員間で話し合い、必要に応じて家族からの情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じて利用者のプライバシーに配慮しながら利用者を把握できるように親類な友人等から情報収集を行うなどして、利用者の生活歴やライフスタイル、個性や価値観などの把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中で利用者のできる事を把握して、職員間で共有できるように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員間で意見を出し合い十分に話し合い作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に伴い、その都度、職員間で話し合いを持ち介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの暮らしや身体状況を記録している。</li> <li>日々のケア実践状況や特変などを記録している。</li> <li>記録の内容を全職員が共有出来ている。</li> <li>申し送り事項は全職員に周知しケアしている。</li> <li>介護計画は月ごとのモニタリングを記入し、実践結果を記録している。</li> </ul>	○	一人ひとりの一日の介護経過を記入し、職員全員で共有しアセスメントを行っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物など、利用者や家族からの希望に応じて対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるように、地域の方々や消防、地域中学校、市職員などに協力が得られるように働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他のケアマネジャーとの連携を図り、スムーズに在宅復帰できるように援助しています。その他、高齢者アパートなど他事業書とも連携を取っています。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	社会福祉協議会や包括支援センターと協働して困難事例に対応している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・これまでの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。 ・通院方法や受診結果の伝達方法は家族などの納得がえられるよう援助している。	○	・利用者家族が希望する医療機関を受診している。 ・受診結果は常に家族へ報告し相談している。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者一人ひとりに応じた指示、助言をしてくれる医師(かかりつけ医)は確保し治療を受けている。	○	職員が気軽に相談できるように、医師との関係を築いていきたい。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し、利用者の日常状態や病歴を把握し24時間いつでも気軽に相談できるように支援している。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は頻回にスタッフが見舞うようにして医療機関との情報交換を行っている。又、家族とも情報交換をしながら退院後の支援に結びつけている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化やターミナルケアについての家族の意向は事前に確認している。 ・ターミナル期に入った利用者については、早い段階で家族と共に医療機関に行き、対応や意見の統一を図っている。 ・チーム内でも方針を共有しケアを提供している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として対応可能な事、不安な事等について職員間で話し合い、医療機関や家族との連携を図り支援している。	○	今後の変化に備えて、職員間での検討をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	利用者がグループホームから他の居所へ移り住む 場合、地域のケアマネージャーに情報提供して、 居所移動後の生活がスムーズに行くように援助し ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー配慮した声がけ、対応をし ている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	利用者との日々の関わりや家族からの情報で、利 用者の希望関心事を把握し、意思表示が出来ない 場合でも表情態度から希望を把握するよう努めて いる。	○	日々の暮らしの中での関わりでの自己決定はなる べく多くの場面で取り入れていけるように今後も 継続していく。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	利用者のペース・体調・希望に合わせて柔軟な対応 で支援している。	○	・時間や気持ちにゆとりを持ち、本人らしい生活 やペースで生活して行けるような働きかけを継続 していきたい。 ・入居者の希望を取り入れ、出来る限り入居者の ペースに合わせて生活出来るように支援をしてい く。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理容、美容に関しては、荘内に美容師に来てもら いカットやカラーなど本人の希望に合わせて対応し ている。衣類なども本人の好みに合わせ着る事が 出来るように援助している。	○	日常生活の中での楽しみへと繋げていけるように 今後も支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の盛りつけや野菜を切ったり食器拭きを職員と共に行っている。 ・介護職員と共に会話をしながら食事をしている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・外出した際、おやつが好きな利用者には、本人と選び購入している。 ・飲酒する利用者には、夕食時に提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個別に排泄パターンを把握し、羞恥心やプライバシーに配慮し、自立に向けた支援を行っている。 ・定期的、訴え時にトイレ誘導している。失禁時には速やかに清潔保持のため支援している。	○	殆どがリハビリパンツを使用しているが、今後も使用を継続していくか等を会議等で話し合いパターンに応じて気持ちよく排泄できるように支援している。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態が落ち着いている午前中に入浴となっており、入浴を拒否する利用者には声がけを工夫したり時間をずらしたりして対応している。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、眠れない利用者は原因を考えながら、付き添ったり飲み物を提供するなどの対応を行っている。必要に応じ主治医の指示で眠剤などの服用も調整している。	○	今後も、一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安眠につなげていけるよう支援していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った日常生活上での役割や苗花の水やり、家事の軽作業(盛りつけや食器お盆拭き)等の働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行えない利用者でも買い物時には支払いを行ってもらうなどの支援を行っている。自ら金銭管理を行っている利用者は、お金を所持してもらい支払いを行うなど、自分で使えるように支援している。	○	個人の買い物時、利用者と共に出かける機会を多くし、その人の力に応じて使えるように取組んでいきたい。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者自らひとりで気分転換にと話され、外へ散歩に出る時はスタッフが同伴し見守りながら支援している。又、天候などを見て買い物に出かけるなど、その日の状況に合わせた支援をしている。	○	入居者の行きたいところ、要望を取り入れ、出来るだけ外出できるように支援していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事企画に取り入れ、ショッピングセンターや食事会、回転寿司などへの外出の機会を多く取り入れ、支援している。又、山へ果実収穫にも出かけたりにして支援している。	○	日常生活の楽しみへとつなげて行けるよう今後も外出を多く取り入れ支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状や簡単な文章などスタッフと一緒に書いたり、絵葉書などを書いて大切な方へ送付できるように支援している。 ・電話をかけたり取り次いだり支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時、居室や応接室にてお茶を飲みながら談話されたりとゆっくりと話が出来よう努めている。 ・利用者の近所の方とかデイサービス利用者の友達とかいつでも訪問出来るよう、過ごしやすい場所つくりを実施している。	○	家族や友人など面会しやすい様な環境作りや定期的な手紙や電話などの情報提供などで気軽に立ち寄ることができるようにしたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけず、ドアに鈴で見守りができている。又、外出時はスタッフが共に付き添い散歩するなどのケアを実施している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者を見守りやすい場所において様子を把握し常に所在確認し安全に暮らせるよう支援している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の手の届かない保管方法を実施している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	必要な知識は研修などを通じて学んだりする機会がある。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当や初期対応訓練を定期的実施している。又、緊急時マニュアルが作成されている。	○	今後も全職員が緊急時に対応できるように、定期的に訓練を実施していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急時や火災時などの対応について内部研修会や消防立会の避難訓練など定期的実施している。 ・緊急時マニュアルを作成し、全職員の目の届く場所に提示している。	○	定期的な利用者を含めた避難訓練の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの状況変化による起こり得るリスクを把握し、いつでも対応できるようにしている。又、家族来荘時など説明している。	○	今後もリスクを少なくするよう、日々のケアの中での気づきを発見し早目の対応をしていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・利用者が急変した際など、看護師との連携が取れるようになっている。 ・朝のバイタル測定など異常があった際は、朝礼などでスタッフに報告し共有や再検など対応している。その他、顔色や歩行状態などいつもと何か違うというレベルでも報告するように取り組んでいる。	○	利用者の身体の異常に気付いた時点で、早期に病院受診につなげていきたい。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の変化に合わせ、主治医に相談し服薬援助している。	○	・誤薬の無いように危機感と責任感を持ち、スタッフ間での連携のもと服薬支援していきたい。 ・薬についての知識などを深めていく必要がある。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つため、毎食後、歯磨きや義歯洗浄、うがいを実施している。	○	義歯は夕食後から就寝前に歯ブラシで洗い、義歯洗浄剤の中に浸けて、職員が責任を持って保管している。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水が著しく現れる利用者などは一日の水分量を徹底して管理している。	○	利用者全員がバランスの良い食事を摂取できて、水分摂取も確保できるように取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症防止、早期発見のため対応マニュアルが作成されている。又、定期的な学習の機会を設けている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具などの清潔を保持するために、消毒日を決め全職員で実施してる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・訪問者や利用者の視点に立って、事業所に入りやすい雰囲気作りを行っている。 ・入口通路に花を置いたり長椅子を置いたり安心して休んでいただける環境にしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月一回の花教室を設け、季節感を取り入れている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に利用者一人ひとりが過ごせる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・居室にはソファやテーブルなど家具やテレビ などを置き居心地の良い家庭的であるようにして いる。 ・馴染みの物、愛用していたものなど持ってきて もらえるように家族に働きかけている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・利用者に合わせ温度調節を行っている。 ・ホール内に温度湿度計を設置し確認しながら適 切な管理を行っている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	生活空間の中で転倒につながる原因がないか観察 している。又、身体状況の変化に応じて環境改善 の工夫を行っている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の混乱を招くような環境の要因に対して は、速やかに改善につなげる工夫をしている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	プランターに花、畑に野菜、敷地内にテーブルや イスを設置し利用しやすいように整えている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)